

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Tステージ赤池IV	階数	地上14F
建設地	愛知県日進市日進赤池第1号土地区域開発事業 仮換地12街区(2.13画地)	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年6月30日
敷地面積	1,203 m ²	作成者	大野靖雄
建築面積	322 m ²	確認日	2019年7月1日
延床面積	2,659 m ²	確認者	馬場律也



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	67%
③上記+②以外の	67%
④上記+	67%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

音環境	3.0
温熱環境	3.7
光・視環境	3.3
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

機能性	3.5
耐用性	2.9
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

地球温暖化	4.3
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.3

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

28.3 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

2.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数		
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.5	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.15		3.1	1.00					3.0	
1.2 遮音					3.0	0.50		3.0	0.50					3.0	
1.2.1 開口部遮音性能					3.0	1.00		3.0	0.30					3.0	
1.2.2 界壁遮音性能				Lr45	-	-		-	3.0	0.30				3.0	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-		-	4.0	0.20				4.0	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-		-	3.0	0.20				3.0	
1.3 吸音					-	-		-	-	-				-	
2 温熱環境															
2.1 室温制御					2.2	0.35		4.0	4.0	1.00				3.7	
2.1.1 室温					1.7	0.63		4.0	4.0	1.00				4.0	
2.1.2 外皮性能				4等級	1.0	0.63		-	-	-				-	
2.1.3 ソーン別制御性					3.0	0.38		-	-	-				3.0	
2.2 湿度制御					-	-		-	-	-				-	
2.3 空調方式					3.0	0.38		-	-	-				3.0	
3 光・視環境															
3.1 昼光利用					2.2	0.25		3.5	3.5	1.00				3.3	
3.1.1 昼光率				昼光率10%	2.4	0.30		4.0	4.0	0.50				4.0	
3.1.2 方位別開口					2.0	0.60		-	-	5.0	0.50			2.0	
3.1.3 昼光利用設備					3.0	0.40		-	-	3.0	0.30			3.0	
3.2 グレア対策					2.0	0.30		3.0	3.0	0.50				2.0	
3.2.1 昼光制御					2.0	1.00		-	-	3.0	1.00			2.0	
3.3 照度					1.0	0.15		-	-	-	-			1.0	
3.4 照明制御					3.0	0.25		-	-	-	-			3.0	
4 空気質環境															
4.1 発生源対策					3.6	0.25		3.7	3.7	1.00				3.7	
4.1.1 化学汚染物質				F☆☆☆☆使用	4.0	0.60		4.0	4.0	0.63				4.0	
4.2 換気					3.0	0.40		3.3	3.3	0.38				3.0	
4.2.1 換気量					3.0	0.50		-	-	3.0	0.33			3.0	
4.2.2 自然換気性能				居室面積の1/8以上の開口可能な窓	-	-		-	-	4.0	0.33			-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50		-	-	3.0	0.33			3.0	
4.3 運用管理					-	-		-	-	-	-			-	
4.3.1 CO ₂ の監視					-	-		-	-	-	-			-	
4.3.2 喫煙の制御					-	-		-	-	-	-			-	
Q2 サービス性能														3.3	
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40		3.6	3.6	1.00				3.5	
1.1.1 広さ・収納性					3.0	0.40		4.0	4.0	0.60				3.0	
1.1.2 高度情報通信設備対応				CAT5E	-	-		-	-	4.0	1.00			-	
1.1.3 バリアフリー計画		独自			3.0	1.00		-	-	-	-			3.0	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30		3.0	3.0	0.40				3.0	
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)					-	-		-	-	3.0	0.50			-	
1.2.2 リフレッシュスペース					3.0	0.30		-	-	-	-			3.0	
1.2.3 内装計画					3.0	1.00		-	-	3.0	0.50			3.0	
1.3 維持管理					3.0	0.30		-	-	-	-			3.0	
1.3.1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50		-	-	-	-			3.0	
1.3.2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	-	-	-			3.0	
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振					2.9	0.31		-	-	-	-			2.9	
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.48		-	-	-	-			3.0	
2.1.2 免震・制震・制振性能					3.0	0.80		-	-	-	-			3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.33		-	-	-	-			3.2	
2.2.1 躯体材料の耐用年数				等級3	5.0	0.23		-	-	-	-			5.0	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			2.0	0.23		-	-	-	-			2.0	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09		-	-	-	-			3.0	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08		-	-	-	-			3.0	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15		-	-	-	-			3.0	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23		-	-	-	-			3.0	
2.4 信頼性					2.6	0.19		-	-	-	-			2.6	
2.4.1 空調・換気設備					3.0	0.20		-	-	-	-			3.0	
2.4.2 給排水・衛生設備					2.0	0.20		-	-	-	-			2.0	
2.4.3 電気設備					3.0	0.20		-	-	-	-			3.0	
2.4.4 機械・配管支持方法		②			3.0	0.20		-	-	-	-			3.0	
2.4.5 通信・情報設備					2.0	0.20		-	-	-	-			2.0	

3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.4	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり					-	-	3.8	3.8	-	0.50
1 階高のゆとり			階高3.01m		-	-		5.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50				-
3.2 敷地内温暖環境の向上					3.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー						0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			等級4		4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			等級4		5.0	0.33				5.0
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										-
4.1 モニタリング										-
4.2 運用管理体制										-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
LR2 資源・マテリアル						0.30				2.8
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器の採用		4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無										-
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材の分別可能		4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤										-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境						0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:70%		4.3	0.33				4.3
2 地域環境への配慮					2.9	0.33				2.9
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温暖環境悪化の改善					3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車台数の確保		4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自								-
3 悪臭										-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制										-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

(仮称)Tステージ赤池IV

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:28.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)Tステージ赤池Ⅳ

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画建物はRC造地上14階建ての分譲マンション30戸を、18m、6m道路間の南北に細長い敷地に配置。当敷地は区画整理地内にあり、今後発展が予想される場所にある為、街並みの形成を意識した計画に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と敷地内駐車場間に緑地を設け、中低木中心に配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位の照明に一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器を採用し水資源保護に努め、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。